

広報

なかつえ

迎春



84/

1月号

No. 237

郵便はがき

日本郵便 NIPPON



1984
昭和59年

40

8 7 7 - 0 0



謹賀新年

今年はずみ年

今年はずみ年の「一番手」ずみの年です。十支にはトラとかタツとか立派な動物も多いのに、なぜずみがトップ・バッターなのでしょう。これは昔、中国で時刻や方角を表わすのに用いた子(し)、丑(ちゆう)、寅(いん)……の十二の方位に、それぞれ動物を当てはめたことによるものです。

ずみは哺乳類。上下のあごにそれぞれ一對の大きな門歯があり、これは終生伸び続けます。子供の乳歯が抜けると「ずみの歯になーれ」と高く放り上げたりするのは、このずみの丈夫な歯にあやかろうというものです。

農作物や食料品を食い荒らすことから、ずみの評判はよくありませんが、半面、縁起がいいとして尊ばれている例も少なくありません。特に白ずみは昔、大黒様の使者といわれ、吉兆とされ

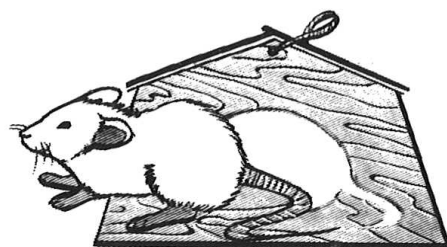
ていました。一方、古事記には、ずみが火の中からオオクニヌシノミコトを助け出す話が出ています。また、「年寄りはずみのおらぬ家には、ろくなことはない」という地方もあります。これは、「ずみがいなくなると火事になる」とか、ずみは「火事の三日前に逃げ出す」「三年いないと火事になる」などという言い伝えと関係があります。

「評判」の良い悪いにかかわらず、昔から、人間にとってずみは身近な存在であったことが分かります。

ところで、ずみ色といえはあまり使われず、グレーという呼び名が一般的となりました。ちなみに今年の流行色の傾向はライト・グレイッシュ・カラー。明るい灰味をもった色ということです。ずみ年が明るい良い年でありますように。



昭和五十九年 元旦





村長
齊藤隆一

—年頭にあたり—

新たな

決意をもって

新年おめでとうござい
す。昭和五十八年は四月の
統一地方選挙にはじまり、
参議院選挙、そして年末の
衆議院選挙で締めくくられ、
選挙に明け暮れた年でした。
私も皆様方のご支援をいた
だき、四期目の村政を担当
させて頂きました。

さて、国の内外の諸情勢
はきわめて厳しいものがあ
ります。中近東、中南米の
紛争はますます激化、経済
面においても世界的不況の
なかにあつて日米、日欧間
の貿易摩擦解消せず、世界
の中における日本の立場は
重要性を増しつつあります。
国内的には財政再建のた
めの行政改革、安全保障問
題、減税、景気の浮揚等、
重要な問題が山積みし、前
途多難を思われますが、村
政面では、皆様方のご協力
により村づくり計画に基づ
く諸政策が確実に進行中
であります。基本産業として
の農業、特に特産物の振興

は津江農協を中心にきゅう
り、わさびを筆頭として、
しいたけ、こんにゃく、お
茶等も銘柄が確立され、一
村一品運動の流れに沿って
定着しつつあります。

また林業は、いまだ低迷
の域を脱せず不況の波をう
けていますが、今後森林組
合支所の上、中津江統合を
基本にし、間伐材対策を中
心とした加工施設に着目、
付加価値を高めるとともに
雇用の増大を図る方向で検
討していきたいと思ひます。
今度「クレコノ台地」に
造成された産業基地は、最
大限に活用して農林業の振
興をはからなければなりま
せん。さらに栃野地区ダム
周辺を中心とした福祉レク
リエーション基地づくりと
しての環境整備も進展中
で、老人福祉センターも近く
成する予定です。
鯛生金山跡地整備として
の産業文化観光基地作りも
ほぼ完成し、「地底博物館

鯛生金山」もオープン以来
好評をいただき、入坑者も
約四十五万人に達し、予想
以上の成果をあげています。
観光開発を通じてその及ぼ
す効果は、商工業の振興、
特産物の開発、雇用の場の
増大、村の行財政の改革、
景気の浮上等に裨益すると
ころ大なるものがあります。
これが過疎対策の重要な要
因となり、村の発展に大き
な足掛りができたわけで、
村の未来に新しい展望が開
けた様な気がいたします。
観光事業による直接収入も
大事ですが、現在村が進め
ている第一次及び第一・五

さらに「ご協力」ご支援を

次産業である特産物の振興
をこれに連動させ、農林業
者の所得の増大を図るのが、
最終の目的であります。し
たがって、これらの観光施
設を十分活用して住民の皆
様の個々の所得に結びつけ
るよう工夫をこらし、知恵
を出していただきたいと思
います。その他、村政の重
点施策である教育の振興、
道路の改良整備、福祉の充
実、環境の整備等も徐々に
軌道にのって、進展しつ
つあります。特にスーパール
道は、村内の諸工事が終り
舗装も昭和六十年年度まで
は完了する予定です。

村長就任以来、企図し計
画してきた過疎対策を中心
にした村づくり計画も、徐
々に成果がはじめてきまし
たので今後、更に従来の方
針を堅持しながら豊かな住
みよい村づくりに邁進いた
したいと思ひます。しかし
ながら、国内の経済的不況
はまだ回復せず、国の行政
改革もますます進展すると
思ひますので、地方自治体

の今後の行財政運営は、更
に厳しさを加えるものと思
ひます。新しい年を迎え新
たな決意をもって、更に執
行態勢を整え村議会の協力
を得ながら、自粛自戒して
村勢の発展に邁進いたした
いと存じますので、村民の
皆様の尚一層絶大なご協力
ご支援を心からお願ひ申し
上げまして、新年のごあい
さつといたします。



—年頭にあたり—

住民サイドで 村勢発展のために

議長 鷹野 勉

あけましておめでとうございませう。輝かしき一九八四年の年頭にあたり、本年も皆さまとともに平和で明るくよい年であることを祈念するものです。

ふりかえってみますと、昨年は選挙に明けて選挙に暮れた年でした。村においても、村長、村議会議員の選挙がおこなわれ、新しい執行体制と村議会によって行政が施行されています。昨年は幸いにして大きな天災地変もなく、天候も比較的順調で農林作物も平年作の収穫をあげることができましたことは、村の経済安定のために喜ばしいことでした。特に昨年は、四月にオープンした鯛生金山が予想を上回る好評で、多数の観光客が訪れて盛況を極めていることはご承知のとおりです。

新しい一九八四年は、国、村も昨年の選挙によつ

てそれぞれに行政システムが確立されたので、円滑な事業の施行が期待されます。本年度の事業は、新年度予算案によって、それぞれの重要事業をはじめ、住民生活に必要な事業が提案されると思いますが、新しい年には新しい思想と希望をかけて、これに対処してゆかなければなりません。やらなければならぬ事業は山積みしてありますが、やはり地域産業の基本である農林業の振興を主体に、教育の充実、道路の改良開発、特に今年は昨年を上回る観光客の来訪が予想されますので、大型車をはじめ、多数の車輛を受け入れるための道路環境整備に万全を期さなければならぬと思いません。

鯛生金山観光開発事業の発展を機会に、地域農林産物の販売を強化しなければならぬと思いません。換金作物の選択を生産奨励し、販売の確立は、農協と商工会に期待するものです。このほか、住民福祉の充実と保健衛生の向上を図らなければなりません。このたび

新年あけまして おめでとうございませう

村民各位のご指導ご鞭撻を
お願いいたします

中津江村議会議員一同

上、中津江両村の施工で建設中の老人福祉センターが本年四月オープンの予定です。この施設は、高齢者を主とする地域住民の保健、保養、休遊の場となる施設です。住民の皆さんのご利用が期待されます。さらに教育、福祉の充実に向上等、

村と協力して積極的に推進しなければなりません。議会は常に住民サイドに立ち、議員一同、一致協力して村勢発展に全力をあげて努力することを約束し、新年のごあいさつといたします。

—年頭にあたり—

脚下照顧の 生き方

教育長 佐藤誠一郎

① 光る標柱

「あいさつは心を結ぶ虹の橋」、「ゴミ一つ捨つ心の美しさ」

道路に点々と白地に朱の文字で間伐材の標柱が建っています。あいさつ運動、美化運動のよびかけです。

鯛生金山を訪れた幾人もの人々が「あの標柱は全国どこにもない中津江らしい、しかも白地に朱のすつきりしたもので感じがいいですね。」と感想をもらしてくれております。

これは、昨夏育友会の方々と先生と子どもたちの「願いをこめた汗の合作」であり、奉仕活動の成果であります。特に育友会の役員の方々は間伐材さがしと運搬と面削りにほんとうに汗を流してくださいました。緑の中に、くつきりと光る標柱に沢山の方々の働きの手が加わっていることを思う時、胸のあつくなるような感動を覚えます。このような実践の積みあげこそ、村づくり活動のほんものといえるのです。

② 学校教育の二本柱

津江中学校寮の生活は大部分大学教授の方々によって研究紀要として日本の教育会で高く評価されていますが、文部省指定の公開研究会で学校を不動のものとなりました。やる気をもって毎日をひたすら生きぬく中学生に励ましの声を願います。

また、本村の「仲よし学校」は、へき地における集合学習の元祖として各地に大きな反響を呼んでおります。創設して満五年、研究紀要「わが仲よし学校」を近く出版することにしております。常に脱皮し創造していくもののみが教育に携わることが出来ると信じています。

③ 世の塩になろう

私たちの村は、村ぐるみで「あいさつ、美化運動」を進めています。やつと緒に着き初めた程度です。これから本番です。この道程は果てしなく続いています。ぐつと腹をすえ、足を踏みしめていかねば、すぐ泡沫のように消滅してしまいます。困難な道のと申せましょう。

理想の社会人は、みな思いやりあうとともに、分に応じた社会奉仕の出来ることだといわれています。そのためには「ささやかでも世の塩となって役立つ。」との心意気と、何が何でもやろうとの実践力を持つことが大事でしょう。



活力ある山村振興と豊かな魅力ある地域振興を図るため、三津江が協力して「地域特産開発推進協議会」を設立し、広域的、組織的に特産開発に取り組んでいます。

耕地が全面積の一・五％という津江地域において、いかに農業振興を図るかが一番大きな課題となる訳です。その第一歩としてスタートしたのが、耕地を林間に求めた畑わさび栽培です。現在三年目、村内でハウス栽培を含めると農家数十戸、面積四ヘクタール、三津江で百八十戸、十二ヘクタールに成長しています。

こうした中で協議会では、十二月十二日、「どうすれば儲かる農業ができるか」というテーマで講演会をおこないました。津江地域のもつ自然条件の中で、市場側から見た農業振興と産地

育成について講演があり、実際の栽培から流通の段階を詳しく話され、三津江より一三〇名の野菜生産者は、熱心に聞き入っていました。内容を拾ってみると、まず林地利用のぜんまい、うど、グラの芽、さんしょう、水田転作地を利用したレタス、ブロッコリー、山ごぼう、ミニトマトなどがあげられました。ただし「販売なくして生産なし」と言われるように、市場性を無視した生産は現在の流通機構では考えられません。市場性はスーパー、デパートなどの量販店に対応できる質と量により確保できる訳ですが、激しく移り変わる消費動向に、いかに対応するかがこれからの産地に求められる条件でしょう。

つまり産地づくりは生産者、市場、消費者が一体となり、連帯しておこなうこ

とです。この点について、市場側から次の事を言っています。生産地はカキクケコを基盤とし、ハヒフヘホで成長すると。(カ：家庭円満・キ：共同生産・ク：暮らしの向上・ケ：計画生産コ：後継者育成・ハ：発想の転換・ヒ：広い知識・フ：不動の信念・ヘ：偏見の排除・ホ：歩調を揃えて) 鯛生金山という身近かな消費地を得た今、まず実行することは、特産物をいかに知ってもらおうか。そのこととで市場においても有利に販売でき、村民の所得向上につながるという形ができた時こそ、中津江村が豊かな魅力ある地域に。

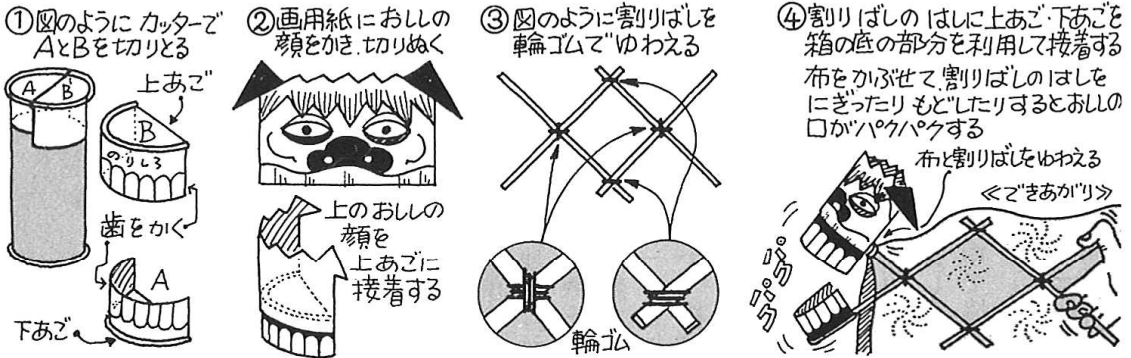
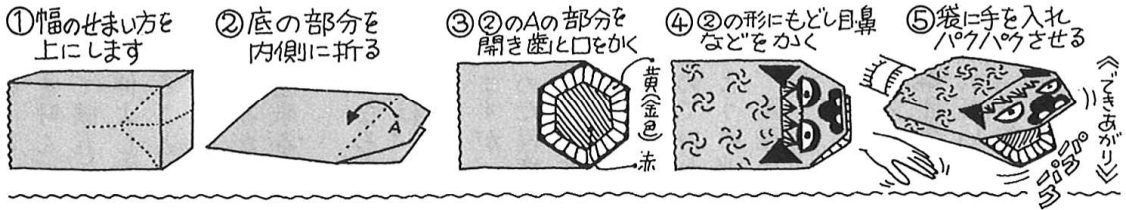


パクパクおしして 遊ぼう



〈用意するもの〉 ●スーパーの紙袋 ●画用紙 ●クレヨンかフェルトペン ●のり(接着剤) ●はさみ ●ポテトチップなどの円筒形の紙箱 ●カッター ●割りばし ●輪ゴム ●布ぎれ ●セロファンテープ

〈パクパクおししの作り方〉



◆**ジョギング愛好会に**
スポーツの基本は走ることからと言われます。体育協会陸上部は、ジョギング愛好会を発足しましたが、まだまだみなさんの加入をまっています。自分のペースで楽しく走ることほもちろん、健康づくりのうえからも、ぜひ参加してみたいかが。詳しいことは体育協会事務局(教育委員会内)でお尋ね下さい。

◆**ジョギング愛好会に**
▲申込先 中津江村教育委員会
▲申込締切 一月二十六日
▲参加料 中学生百円・高校生二百円・一般三百円(一日保険料)

◆**日田郡ロードレースに参加を**
第二回日田郡ロードレースがおこなわれます。実施要領は次のとおりです。ぜひ参加してみてください。
▲日時 一月二十九日(日)・受付九時三十分～十時・十一時スタート
▲場所 上津江村広川グラウンド
▲種目 男子：十キロ・五キロ(初心者)・三キロ(中学生) 女子：三キロ(一般・高校生・中学生)

◆**ありがとう赤い羽根募金**
十月の共同募金月間にちなんでお願いしました「赤い羽根」募金につきまして、皆さまのご理解をいただき、十九万九千三百円の金額となりました。この募金は早速県共同募金会へ送らせていただきました。厚くお礼申し上げます。

ガわやか君

奨学生を募集しています

昭和五十九年度の中津江村奨学生を次の要領のとおり募集します。
 応募されたい方は、一月三十一日までに書類をそろえ、教育委員会まで提出してください。

▼応募資格

- ① 中津江村内に一年以上居住する者の子弟
 - ② 学業、人物ともにすぐれ、かつ健康な者
 - ③ 経済的理由により、学資の支弁が困難な者
 - ④ 中学校卒業生で高等学校、高等専門学校に進学、または在学する者。
- ただし、日田市内の県立高等学校に進学、在学する者は、特別の事情が

ある場合を除いて高校寄宿舎に入寮する(している)こと。

▼奨学金の額 貸付金額一万円(年十一万円、八月を除く)

▼貸付期間 昭和五十九年四月から進学、在学する学校の修学期間の終

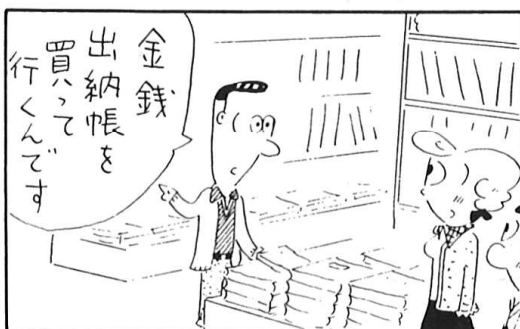
期まで無利子で貸付する。ただし各学年末に調査の結果、学業成績等が

著しく低下した場合、または所得が著しく増加した場合は、貸付を打ち切ることがある。

▼返済期間 卒業または退学した年から七年以内に返済しなければなら

ない。

▼応募手続等について、くわしく知りたい方は教育委員会まで。



年金の繰り上げ請求は 慎重に 慎重に

国民年金の老齢年金、通算老齢年金がもらえるのは65歳からですが、希望すれば60歳からでも受給できます。

ただし、年金の額は、表のように受給を繰り上げるほど少なくなります。この割合は終生、かわりません。しかもい

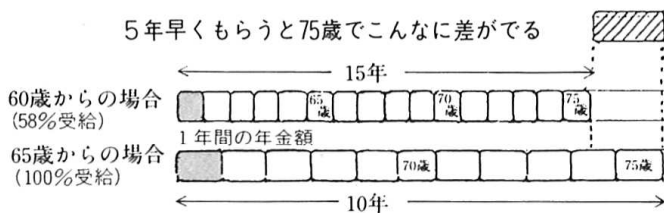
受給開始年齢	65歳で受けるときの年金額に対する割合
60歳	58 %
61歳	65 %
62歳	72 %
63歳	80 %
64歳	89 %
65歳	100 %

65歳前に年金を受けてしまうと、65歳になっても本来の年金額に引き上げられることはありません。

年金の繰り上げ請求は慎重に決めてください。

たとえば、75歳までに受け取る合計額は、60歳からもらう場合と、65歳からもらう場合とでは斜線のみだけ差がでます。

くわしいことについては、役場年金係へたずねてください。



5年の違いで 金額は約半分になる

要注意！ 食べすぎと運動不足

お正月の食生活

お正月休みが終わると、体の不調を訴える人が意外に多いようです。
忘年会などでの暴饮暴食につづいて、おせち料理などごちそうの食べすぎ、ついつい度を越してしまってお酒……このような不規則な食生活に運動不足が加われば、体調を崩さない方が不思議なくらいです。
バランスのとれた食生活と適度な運動で体調を維持し、最良のコンディションで新しい年のスタートを切りたいものです。

暮れから正月にかけては、胃や腸など消化器を痛める悪条件がいろいろあります。

生活時間が不規則な上に、食っちゃ寝、食っちゃ寝になりがちで、一日中だらだらと食べたり飲んだり……当然運動不足になり、胃はもたれ、体調を崩してしまいます。

お正月に限らず、わたしたちの家庭行事にはごちそうはつきものです。招く側も好意と敬意の印として、ごちそうを用意し、お客の方もまた、それを喜び、すすめられるままにお酒を飲み、食べる——という習慣があります。

しかし、このために体の調子を狂わせているようでは、何のためのお祝いであり、交際のなかからなくなりません。家庭の行事と食事やお酒の関係を、もう一度考えてみたいものです。ごちそうはごちそうとして味わいながら、それ以上に楽しいふん囲気で語らい、その場をコミュニケーションの場として生かすという交際のしかたを身につける——年の初めに、こんなことを考えてみるのもいいかもしれません。



書き損じたはがき

年賀状を書き損じた経験はどなたでもあることでしょう。

郵便局では、年賀状に限らず、官製はがきの場合でも書き損じたり、汚したり、誤って印刷したはがきを次の要領で新しいものと交換しています。

交換手数料は通常はがき1枚につき5円、往復はがき1枚10円です。ただし、切手に相当する部分を汚したり、傷つけたりしたものはお取り換えできません。あなたは書き損じたはがき、クズかごに捨ててしまいませんか。

文化財防火デー

1月26日は文化財防火デー。日本人の歴史と文化の軌跡を示す文化財を炎の魔の手から守ることは、私たちひとりひとりの願いであり、責任であるといえましょう。

わが国の文化財は、木造建築や木製・紙製の工芸品が多いため、常に火災による損失の危険にさらされているといえます。

1年のうちでも冬場と春先は火災シーズン。ちょっとした不注意で火災はおこります。日本人の歴史と文化をしっかりと守りたいものです。

あけまして
おめでとーいづいづーいます

本年も
「広報なかつえ」
をよろしく

元旦



広報MAN

雑記

さあ、新年。昨年よりも今年は前進しなければならぬ。パターン化してしまつたこの「広報なかつえ」、どうみなさんをひきつけるか、まずはこれからか。

最近ではあらゆる読書物がふえ、本屋さんの店先には多くの雑誌がひしめいている。それだけにしやれた写真、内容、割り付けを見慣れている人も多い。この傾向は全国各地の広報マンを泣かせているらしい。プロだからうまいはずだ、商売だから仕方がない、ではすまされるものでもないし、事実、広報をつくっている以上、私たちがプロでなければならぬ。どうかしてこの壁をのりこえることを新年の抱負としたい。

新しいカレンダーをめくってみる。一年とは長いものだと感じながら、やっぱりカレンダーの品定めをする。ああ、この写真はきれいだ、見やすい、すでにここにも一つの印刷物が人の目にふれている。